

田辺三菱製薬株式会社の株主の皆様へ

田辺三菱には日本企業による悲惨な買収案件の列に加わる可能性のあるニューロダーム買収を再検討する機会が残されている

バイセロイ・リサーチ（以下、バイセロイ）はニューロダームに関する骨太なリサーチを発表しましたが、田辺三菱製薬株式会社（以下、田辺三菱）は10億ドル相当の株主価値を危機に晒すことになるであろう買収提案に積極的に向き合うよりも、沈黙を選んでいるように見えます。田辺三菱はさまざまな日本企業が苦汁をなめた海外企業買収失敗例の列に加わるような今回の買収提案を再考する機会が目の前にあるのです。

海外企業買収の失敗例¹:

- 1989-1990 – 三菱地所による14億ドルのロックフェラーセンターの買収
- 2000年代 – NTT DoCoMoによる一連の海外投資の減損処理
- 2006 – 東芝によるウエスティング・ハウスの買収
- 2008 – 野村證券によるリーマン・ブラザーズの欧州、アジアビジネスの買収
- 2008 – 第一三共によるランバクシーの買収
- 2009 & 2011 – キリン・ホールディングスによる豪州・ブラジル飲料事業の買収
- 2013 – ソフトバンクによるスプリントの経営権取得
- 2015 – 日本郵政による豪州物流会社、トール・ホールディングスの買収

これらの買収案件の大部分については、日本の事業規模と比較して過大なリスクを負っていることや海外の資産価値が過大に見積もられていたことが事前に注目されていました。

田辺三菱のニューロダーム買収は見直すことができないとは考えていません

田辺三菱はこの買収案件を中断するために積極的に対応するべきであると考えています。

バイセロイは田辺三菱を高く評価していますが、ニューロダームに関しては1株あたりの帳簿価格である4.87ドル、つまり事業としての価値は0ドルであると分析しています。

ニューロダームに関するバイセロイのリサーチレポートはこちらでご覧になれます。[here](#). 日本語要約版はこちらをご覧ください。[here](#).

お問い合わせがございましたら、下記メールアドレスまでお寄せください。

viceroiresearch@gmail.com.

Viceroy Research Group

¹ <https://www.japantimes.co.jp/news/2015/07/24/business/long-history-money-losers-japan-inc/#.Watx7Mig-Uk>